薬事委員会

1 目的

当委員会は病院長の命を受け、当院で使用する診断および治療用医薬品の安全性と有効性に関し調査審議し、不良医薬品による事故を未然に防ぐとともに、経済性にも配慮した合理的採用と運営により、診療活動の円滑化を図ることを目的とする。

2 構成メンバー

委 員 長：劉(画像診断センター長)
副委員長：田村(薬剤部課長)
事 務 局：米澤(薬剤部係長)
メンバー：石崎(院長・脳神経外科部長)
青山(精神科医長)
江黒(整形外科部長)
勝部(心臓血管外科部長)　清水(外科部長)
勝呂(総合診療科部長)　中里(泌尿器科部長)
藤岡(副院長、内科兼血液・腫瘍内科部長)
本江(循環器センター長)
長谷川(看護部長代行)　小関(事務長)
新村(医療安全管理室室長)
小野寺(医療安全管理室副室長)
石田(総務課係長)　一瀬(医事課係長)

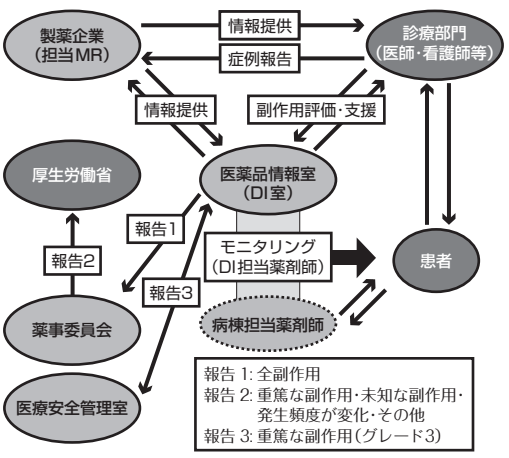
3 開催日時

奇数月第４月曜日　８：30～

4 活動内容

薬剤部 医薬品情報管理室で薬事委員会事務局業務を担っている。奇数月第４月曜日に開催。各開催月毎に議題を設け、当委員会として病院に貢献できるよう努力している。また、新規採用・仮採用・採用中止等の通常内容も議題として掲げている。

菊名記念病院における副作用報告システム



2025年４月～2026年３月の主な議題

- 第115回(５月26日)開催
  ガストローム顆粒66.7%採用中止
- 第116回(７月28日)開催
  ヨウ化カリウム丸50mg「日医工」の新規採用(ジピリダモール錠100mg「JG」採用削除)
  リン酸Na補正液0.5mmol/mℓの新規採用(スピール膏-M採用削除)
  ダラシンカプセル150mgの新規採用(セフゾンカプセル100mg採用削除)
  リスモダンP静注50mg採用中止
  パキロビッドパック300/600採用中止
- 第117回(９月８日)開催
  イオパミドール370注シリンジ65mℓの新規採用(イントラリポス輸液20%250mℓ採用削除)
- 第118回(12月１日)開催
  ボリドカスクレロール注0.5%の新規採用(フルタイド200ディスカス採用削除)
  ジクトルテープ75mgの新規採用(MS温シップ「タイホウ」採用削除)
  ナルサス錠２mgの新規採用(インフリーカプセル100mg採用削除)
  ナルラピド錠１mgの新規採用(サルタノールインヘラー100μg採用削除)
  ナルベイン注２mgの新規採用(リゾビスト注採用削除)
  オキシコドン注射液10mg「第一三共」の新規採用(ワゴスチグミン注0.5mg採用削除)
  ラピアクタ点滴静注液バッグ300mgの新規採用(フィニバックスキット点滴静注用0.25mg採用削除)
  ネオクルティケア製薬が自己破産
- 第119回(１月26日)開催
  エフピーOD錠2.5の新規採用(デルモベートスカルプローション0.05%採用削除)
- 第120回(３月23日)開催
  ブリモニジン酒石酸塩点眼液0.1%「日点」の新規採用(アイピーディカプセル100mg採用削除)
  ブリンゾラミド懸濁性点眼液１%「サンド」の新規採用(ブロムヘキシン塩酸塩シロップ0.08%「トーワ」採用削除)
  エルエイジー10液在庫消尽次第採用中止
  ケレンディア錠10mg/20mgの新規採用(ロレルコ錠250mg、アゼルニジピン錠16mg「日医工」採用削除)
  クロルヘキシジングルコン酸塩エタノール消毒液１%「東豊」の新規採用(エルエイジー10液採用削除)
  大塚糖液５%TN50mℓ/100mℓ採用中止
  令和８年度診療報酬改定内容の共有
  第118回薬事委員会にて承認されたジクトルテープ75mg及び麻薬製剤の新規採用申請取り消し

●医薬品に関わる副作用情報の収集

医薬品に関わる副作用情報を臨床(病院)から国へ報告しその内容を共有することは必要である。また、当院の外部からの評価を上げることにも繋がる。

2024年度は、110件の副作用報告を当医薬品情報管理室が受け、重篤なものはないと判断し、製薬会社等へ報告はしていない。

2025年度は、79件の副作用報告を当医薬品情報管理室が受け、今年度も重篤なものはないと判断し、製薬会社等へ報告はしていない。DPC管理委員会からの集計と合わせて病棟担当薬剤師からの報告も高い水準で維持している。

2026年度も引き続き院内における副作用を発見し対処するとともに、発現してしまった副作用について積極的に収集し、しかるべき機関に報告していく体制を構築する必要がある。

●2026年度へ向けて

薬事委員会の薬剤採用方針は１増1減であるが、2014年４月の診療報酬改定以降、ＤＰＣ係数上の満点である使用数量ベース60%以上という指針を元に目標を80%以上と定めジェネリック医薬品(以下ＧＥ)への採用変更を推進してきた。しかし、現在ではＤＰＣ係数上の満点が使用数量ベースで90%以上に引き上げられたため、目標に関しても90%以上と定めた。また、2024年度からはバイオ後続品使用体制加算が診療報酬上算定開始された。今後

も他部署と連携し、当委員会にて審議を行い必要に応じてGEやバイオ後続品への切り替えを行っていく必要がある。

副作用報告の啓蒙は2026年度も継続していきたい。重篤な副作用は患者の命に直結するため、軽度中等度の段階で早期に副作用を発見し、重篤化を未然に防ぐということを念頭に置き、どちらかというと軽度中等度の報告件数が増加するように、病棟薬剤師や医師、看護師などと連携していきたいと考えている。そのためには昨年度同様、副作用に対する全職員の認識を向上させるため、副作用に対する率先した活動が望まれる。

（文責：医薬品情報管理室　係長　米澤　禎貴）

化学療法委員会

1 目的

化学療法委員会は薬事委員会の下部組織であり、質の高い化学療法が安全に実施・提供されるように投与される薬剤レジメンが疾患に対して適性であるかどうかを審査する目的で設置する。なお、外来・入院を問わず院内で行なわれる化学療法全般に関する事案について取り扱う。

2 構成メンバー

委 員 長：藤岡（副院長、内科兼血液・腫瘍内科部長）
事 務 局：山﨑（薬剤部副主任）
メンバー：石崎（院長、脳神経外科部長）
井手（乳腺外科部長）
中里（泌尿器科部長）
西元（消化器センター長）
水谷（外科医師）
福岡（看護部係長）
渡辺（看護師主任）　堀越（看護師）
新村（医療安全管理室室長）　山田（栄養科）
一瀬（医事課係長）　小荒井（医事課主任）
田村（薬剤部課長）

3 開催日時

毎月第２月曜日15時～（2023年11月～）

4 活動内容

●活動の変化

当委員会は2010年より委員会を年１回以上開催することとしていたが、2017年11月より月１回の開催に改め活動を行っている。化学療法実施件数は別表の通りである。

●レジメン・統合セットの登録・管理

レジメンおよびレジメンに沿った適正処方のためのセット作成および修正変更による管理を行った。ガイドラインに則した治療内容の検討に加え、後発医薬品やバイオシミラー製品の推進なども踏まえて調整を行っていく。

●化学療法マニュアルの作成

2025年に改訂した院内統一の化学療法マニュアルに従いがん化学療法を実施している。今後も不足部分を加筆、修正していく活動を行う。

●化学療法に関わる安全管理

化学療法に関わるインシデント・アクシデントを持ち寄り、共通のルールの見直しを行い安全管理に寄与していく。

●令和７年度 化学療法委員会　統計一覧

単位：回

化学療法件数		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外　科	入院						1	1	2					4
	外来	7	5	10	11	7	14	14	9	8	9	5		99
乳腺外科	入院													0
	外来	17	18	16	17	18	19	16	20	15	25	11		192
消化器内科	入院				1		1		1					3
	外来	1	2	1	2	1	0	2	2	3	0	2		16
脳神経外科	入院				1						1			2
	外来	2	2	2	2	4	4	2	2	2	2	1		25
内　科	入院	4	6	11	16	10	13	19	12	12	9	10		122
	外来	24	18	15	18	11	8	5	9	8	9	18		143
計（泌尿器科除く）	入院	4	6	11	18	10	15	20	15	12	10	10	0	131
	外来	51	45	44	50	41	45	39	42	36	45	37	0	475
泌尿器科（膀胱内注入）	入院						1	1	2	3	2			9
	外来	24	15	16	25	17	24	21	23	14	21	16		216